私がおすすめするベストビジネス書

ビジネス書大賞2011

現代語訳 学問のすすめ

福澤諭吉　筑摩書房　798円（税込）

明治に刊行されて現在までに300万部を超える「日本最強のビジネス書」。この本には「学問の大切さ」と、国としても人としても独立して歩んでいくことの大切さが語られています。いつの時代でも冷静に物事を見つめている人の視点というのは、現代(いつの時代)でも通じるものが多いのだと、いくつも目からウロコの出る思いでした。世界でも誇れる「日本人の良さ」を育んできた「教育」、その原点を担ってきた福澤諭吉の教えを改めて学ぶこと、常に読み返すということも、今後の日本全体の復興を考えたときに、少しでも役に立つのではないか思っています。人の生き方のテキストとして手元に置きたい一冊です。　（鹿田尚樹　ブログ：「読むが価値」）

私がおすすめするベストビジネス書

ビジネス書大賞2011

ドラッカー 365の金言

P.F.ドラッカー　ダイヤモンド社　2940円（税込）

本書はマネジメントや経営についてなどの著作から、365の金言を選び出したものです。日に一つの言葉を読むことができるようになっています。また、ページ下には、「アクションポイント」として、実践するためのヒントが紹介されています。言葉から実践へとつなげやすい工夫があります。ドラッカーをこれから読みたいと考える人には、ドラッカー氏の著作を選ぶためのガイドブックとして、ドラッカーを読んだことがある人にとっては、再度読み返して、自らの行動や考えを確かめるための本として、活用することができます。

（小林祥明　ブログ：知識をチカラに!）

私がおすすめするベストビジネス書

ビジネス書大賞2011

礼儀作法入門

山口瞳　新潮社
420円（税込）

礼儀作法が完璧でなくても、相手を傷つけたり不快にさせたりしなければ、咎める必要はない。相手を思った上での行為には気持ちがこもっているのだから。気づいてもらえないこともあるかもしれないけど。人は常に誰かの目に触れていることを考えれば、自分の全てが周囲との関わりを持っている。お行儀良く生活を送る人が増えていったら、毎日が気持ちよく過ごせるのに。周りの不満を感じる前に、この本を読んで礼儀作法とは何か、見直すのはどうだろう。自分に対する見方が変わる、はず。

（水上紗央里　紀伊國屋書店新宿本店）

私がおすすめするベストビジネス書

ビジネス書大賞2011

代表的日本人

内村鑑三　岩波書店
630円（税込）

本書は、幕末に武士の子として生まれた内村鑑三が、日本人の代表として、西郷隆盛、上杉鷹山、二宮尊徳、中江藤樹、日蓮上人の5人の生涯を描いたものです。彼ら5人の生涯を描いた本書を読み進めるうちに、読者は問いかけられます。「日本に生まれたものとして、自分はどう生きていくべきか」と。グローバル化が進む現在の世の中では、幕末と同じように、日本人としてのアイデンティティが問われています。代表的日本人は、彼ら5人だけではありません。わたしたち一人ひとりが代表的日本人なのです。　（松尾茂　ブログ：TravelBookCafe）

私がおすすめするベストビジネス書

ビジネス書大賞2011

クリティカル進化論（シンカー）

道田泰司　宮元博章　北大路書房　1470円（税込）

若い頃に読んで思考の礎になりました。論理思考と心理学を合わせたような思考法で、原因は何か？ 本当に事実か？ といった考える習慣が身につきます。ぜひ若いうちに読んでいただきたい、オススメの一冊です。

（大森三規雄　中経出版　営業推進部）

私がおすすめするベストビジネス書

ビジネス書大賞2011

人を動かす

D・カーネギー　創元社
1575円（税込）

誰もが読んで欲しい名著。「盗人にも五分の理を認める」と初めに書いてあることには、古くからの著作ながらも新鮮味を感じる。時代は変わっても人間の本質はそう変わらないと考えると、本書が説く「原則」は現代でも未来でも通用するだろう。「名前を覚える」「しゃべらせる」など、わずかなことでも人間の心理に訴えかける力は大きいと教えてくれる。本書の内容を一つだけでも実践してみれば、人間関係が好転すること請け合い。

（斎藤広臣　オリオン書房イオンモールむさし村山ミュー店）

私がおすすめするベストビジネス書

ビジネス書大賞2011

さあ、才能（じぶん）に目覚めよう

マーカス・バッキンガム&ドナルド・O・クリフトン　日本経済新聞出版社 1680円（税込）

自分の弱みを克服する必要はなく、強みを見出し、伸ばし、活用するほうが個人も組織も向上していくという理論に目からウロコが落ち、その後の自分の考え方や行動を大きく変えました。本のシリアルナンバーをWebサイトに入れると、Web上で自分の強みを発見できる本格的なテストができるというのも、活字 × Webを組み合わせた画期的な試みだったと思います。

（井上敬子　文藝春秋「CREA」局出版部）

私がおすすめするベストビジネス書

ビジネス書大賞2011

私はどうして販売外交に成功したか

フランク・ベドガー　ダイヤモンド社　1223円（税込）

著者は、大リーガーを怪我が原因で引退し、その後失意のどん底から這い上がり、保険のセールスマンとして大成した人です。大リーガーだった著者に自分を重ねるのはおこがましいのですが、「サッカーばかりだった自分でも、この本の通りにやれば、もしかしたら成功できるかも（笑）」という気持ちにさせてくれた一冊です。それまで読書をした記憶はほとんど無かったのですが、この一冊で本の魅力にはまり、本を読み漁る読書大好き人間に。

（井上直　ダイヤモンド社営業部）

私がおすすめするベストビジネス書

ビジネス書大賞2011

書いて生きていく プロ文章論

上阪徹　ミシマ社　1680円（税込）

文章の書き手はこうあるべき、という熱いメッセージが詰まった一冊。インタビューに対する心構えや立ち振る舞いは、記者やライターに限らず、日ごろから多数の顧客と接する営業マンにとっても大いに参考となるであろう。多くのビジネスマンは仕事に対する基本姿勢を本書から学んでほしい。

（伏見学　ITmedia　エンタープライズ編集部）

私がおすすめするベストビジネス書

ビジネス書大賞2011

道をひらく

松下幸之助　PHP研究所
914円（税込）

「National」「Panasonic」を育て上げた「経営の神様」がおくる珠玉の随想集は今日に至っても全く色褪せない。なぜなら時代によらない普遍的な洞察があるからだ。仕事においてだけでなく、人生においても自身の道を照らし出してくれる言葉の数々は、働く人だけでなく、あらゆる人に読んでいただきたい。

（奥野智詞　紀伊國屋書店福井店）

私がおすすめするベストビジネス書

ビジネス書大賞2011

フリー
〈無料〉からお金を生みだす新戦略

C・アンダーソン　NHK出版　1890円（税込）

フリー経済という新しい経済体系、市場形態を豊富な事例と共に知らしめた本。ネットがますますわれわれのリアルな経済活動とシンクロしていく中、コンテンツはフリーであり、新しい価値観を持ってビジネスモデルを構築していかなければならないことを学ぶことができた。また、時代はまさしく資本主義の転換点であることを強く認識させられた本である。

（一龍　ブログ：一流への道）

私がおすすめするベストビジネス書

ビジネス書大賞2011

スティーブ・ジョブズ
驚異のプレゼン

カーマイン・ガロ　日経BP社　1890円（税込）

健康状態ですら世界的なニュースになるという、アップルのCEO、スティーブ・ジョブズ。彼のプレゼンは、巧みな話術や大胆な演出で、多くの人々を魅了してきた。語録や半生記などは多数出版されてきたが、そのプレゼンの方法論を「法則」として分析し、多くのビジネスパーソンが実践できるようまとめられている点で、「使える」ジョブズ本となっている。

（中野和彦　青春出版社プライム涌光編集部）

私がおすすめするベストビジネス書

ビジネス書大賞2011

ビジネスマンの父より息子への30通の手紙

キングスレイ・ウォード　新潮社　620円（税込）

中学生の頃、初めて手に取った。内容は見事に頭の中をスルーした。人生と仕事の深みを教えてもらうには、まだまだ早すぎた。大学卒業の頃、再び目を通した。少しだけ背伸びをした。重ね合わせて読むのには、まだ経験が足りなかった。就職し、結婚し、子どもが生まれた頃、三度開いた。今度は訪ねて来てくれた。多くを語らず、ただ背中を押してくれた。長く付き合えるビジネス書は、意外と少ない。一緒に歩める意味で本書をベスト1に推します。　（栗澤順一　さわや書店フェザン店）

私がおすすめするベストビジネス書

ビジネス書大賞2011

ビジョナリーカンパニー

ジエームズ・C・コリンズ　日経BP社　2039円（税込）

名著。多くの経営者、ビジネスパーソンに影響を与え続けている。発刊から10年以上が過ぎても内容は色褪せず、若手起業家の中にも「座右の一冊」に挙げる人が少なくない。私自身、経済誌編集者として、企業を見る視点を多く与えてもらったと思う。

（村上広樹　日経 BP 社「日経ビジネスアソシエ」編集部）

私がおすすめするベストビジネス書

ビジネス書大賞2011

君たちはどう生きるか

吉野源三郎　岩波書店　840円

主人公の「コペル君」に近いティーンエージャーの頃に出会い、「自分と身辺に起こる出来事を通して、人間と社会を考える」という眼を開かれた名著である。しかし実は、私がその深淵に本当に触れることができたのは、後年、コペル君の人生の師匠として登場する「おじさん」の歳になり再読した時である。人生とは何か。家族とは、仕事とは、幸福とは……。なんの道標もない、この人生という秘境の旅の途上で、何度も読み返してきた本書を、真摯に生きる現在人に薦めたい。

（玉越直人　WAVE出版）